

庄内大豆通信 号 外

令和3年7月29日

庄内総合支庁農業技術普及課 TEL: 0235-64-2103 FAX: 0235-64-2104

開花期の畝間灌水で増収を図る！

この先1か月は、平均気温が高く、降水量が少ない見通し。(気象庁1か月予報：7/24～8/23)

大豆は、開花期頃に特に多くの水量を必要とするため、灌水可能な圃場では、適切に畝間灌水して落花を防止、着莢数を確保して増収を図る。

1. 大豆生育状況

- 開花期は平年より5日程度早い。
「里のほほえみ」が開花期となっている。
- 大豆の生育量は平年より大きい。
主茎節数が多く、草丈や主茎長が長い。

大豆の生育状況(7/27時点)

年次	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/個体)	分枝数 (本/個体)
R3	7/27	88.4	54.6	13.3	1.8
平年	8/1	69.9	43.8	12.3	2.2

圃場：三川町青山 播種日：6/7 品種：里のほほえみ

2. 畝間灌水のタイミングとポイント

- 大豆の開花期～登熟初期(7月下旬～9月上旬)。
開花期から約2週間が特に増収に効果的。
- 土壌表面が白乾・亀裂発生時。
大豆の葉の直立・裏返りは乾燥ストレスを受けている目安(右写真)。
- 圃場全体に水が行きわたるよう灌水する。
排水不良な圃場での灌水や、一度での過度な灌水は逆効果となる場合がある。ホースや土嚢等を活用し、水口から水尻まで畝間に水を走らせるように灌水する。地下灌漑設備がある場合には地下水位を40～50cmに制御する。



葉の裏が見える
畝間の土が白乾
灌水すべき圃場の状況
(R3、庄内町、7月下旬)

3. 害虫の防除

管内で、マメハンミョウが発生している圃場が散見される。圃場内を確認し、害虫の早期発見・早期防除に努める。



マメハンミョウ

7月下旬～8月頃に局所的に発生。群生し、葉の葉脈を残して食害する。



ジャガイモヒゲナガアブラムシ

7月下旬～8月下旬に急増する。葉裏から吸汁し、葉に黄色斑点を成す。大豆のわい化病を媒介するだけでなく、葉の黄化・早期落葉に繋がる(写真:無翅成虫・多発圃場)。

防除のポイント

- ・ 食害痕や吸汁痕が、圃場外から見て目立つようであれば早めに薬剤防除する。
- ・ アブラムシ類を防除する場合、薬液が葉裏にもかかるように散布する。
- ・ 農薬の使用基準を順守。